発達障害傾向を検査するスクリーニングツール

弘前大学大学院医学研究科　准教授　斉藤まなぶ

研究概要

　近年、世界的に発達障害支援への関心が高まっています。国内では、2004年に発達障害者支援法が成立し、早期発見や早期支援に向けた取り組みが期待されています。本学は弘前市と連携し、5歳児を対象とした発達健診を2013年度から実施しており、多人数から発達障害傾向にある対象者（リスク児）を精度よく絞り込むツールを開発しました。

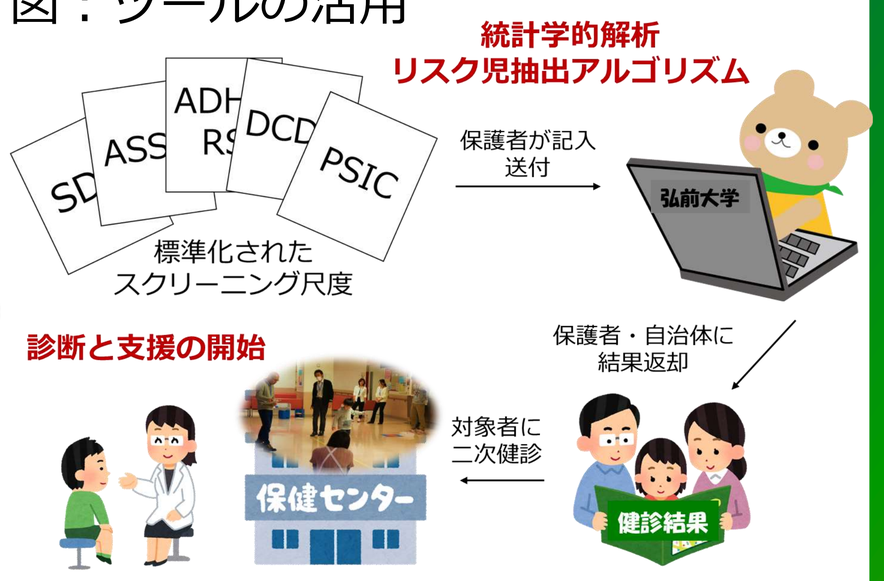
共同研究機関：㈱サーベイリサーチセンター、（公社）子どもの発達科学研究所

5歳児発達健診の実施内容

　弘前市5歳児発達健診は、弘前市在住の5歳児を対象に以下の流れで実施しています。

（１）自治体から各保護者にアンケート送付（一次健診）
（２）受領した保護者はアンケート回答及び園の先生に回答依頼
（３）弘前大学にてアンケートの回収、一次健診結果の解析
（４）一次健診結果の返却及び二次健診の誘い（リスク児の抽出）
（５）リスク児の二次健診、診断・支援計画
（６）継続支援

図：ツールの活用



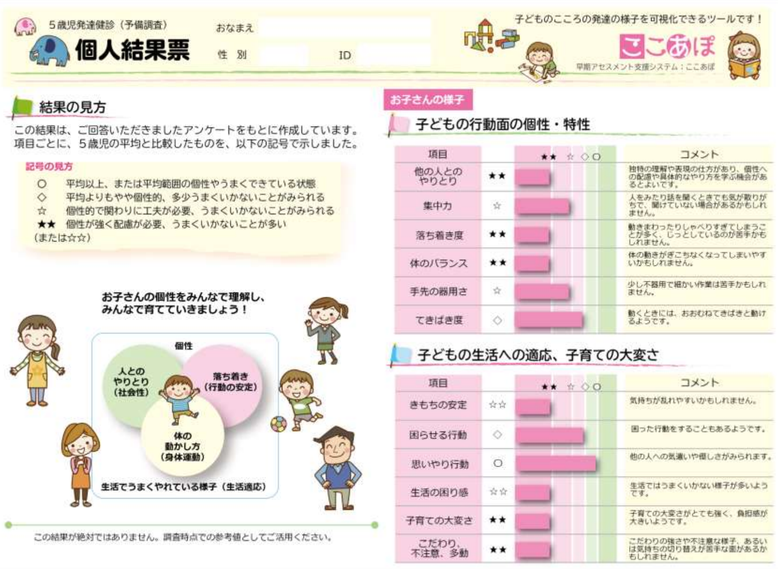
研究成果

　一次健診は子どもの行動や自閉症スペクトラム等を対象にした質問紙を複数用いた検査です。弘前大学は、感度と特異度が優れた独自のカットオフ基準を用いたスクリーニングツールを開発＊・特許出願し、健診にて使用しています。 ＊特願2019-059991「発達障害可能性評価装置，および発達障害可能性評価方法」

　本スクリーニングツールを使用した結果、使用前と比較して発達障害者の数は一定であるものの、二次健診対象者を減少させることができたことから、スクリーニング効率の上昇が実証されています。

今後の展開

　共同研究機関と協働して、本スクリーニングツールを搭載した一次健診のWEBシステムを構築しました。今後、発達健診に関心のある相談施設や自治体と連携した取り組みを推進していきます。



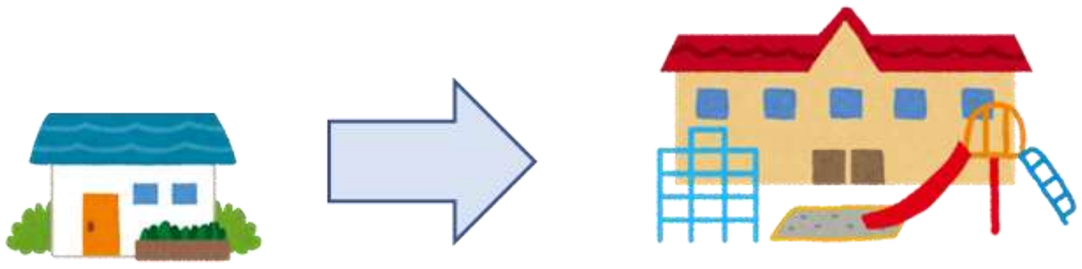
図左：
一次健診にて用いるアンケート画面例

図右：
一次健診結果の個人結果票
受診者全員に送付される。検査結果に応じて、今後の支援に役立つ情報を含んでいる事が特徴。

5歳児発達健診の流れ

HIROSAKI UNIVERSITY

①家庭でのアンケート調査、
保護者から園へのアンケート依頼



②市・大学：
調査データの収集と解析

健診をお勧めする場合

※希望者も受診可能

③アンケート結果と
発達健診へのお誘い

④発達健診

⑤健診結果と支援計画を
個別返却

上記以外

③アンケート結果を郵送

	旧アルゴリズム	新アルゴリズム			
年度	2013	2014	2015	2016	2017
スクリーニング対象児数	1310	1261	1233	1229	1133
返却数 (%)	954 (72.8)	965 (76.5)	1004 (81.4)	1031 (83.9)	966 (85.3)
リスク児%	23.7	**18.5**	**20.1**	**16.1**	**17.2**
健診での 発達障害診断率%	47.8	**88.2**	**85.7**	**86.5**	**93.9**
発達障害児/リスク児(%)	33.6	**54.2**	**59.4**	**54.2**	**56.0**

【お問合せ先】 弘前大学 研究・イノベーション推進機構　東京事務所　TEL：03-3519-5060　Mail：j-tokyo@hirosaki-u.ac.jp